

竹田の城下町

竹田を歩くということは、400 年以上前の人々の足跡をたどることだ。旧城下町の配置は、岡藩（現在の竹田市）の初代藩主であった中川秀成（1570-1612）が構想した当初の計画からほとんど変わっていない。

竹田は丘の頂上を平らにして築かれた岡城の下に開発された。丘の上に最初に城が築かれたのは 12 世紀だが、1594 年に中川家が藩政を執り始めると、自ら石造りの城を築き、竹田となる城下町の計画を始めた。中心部には商家が立ち並び、郊外の丘陵地帯には武士が住んでいた。

町並みの大まかな形だけでなく、中川家が竹田を治めていた頃の建物も数多く残っている。町の通りにはいくつかの 1800 年代の家屋、土蔵、その他の建物をみることができ、南端の武家屋敷通りには武家階級の住居が立ち並ぶ。その他、画家・田能村竹田（1777-1835）や作曲家・瀧廉太郎（1879-1903）の旧宅など、歴史的建造物も多い。